

宮城県土木部

東日本大震災 10年間の復旧・復興の記録

平成23年度～令和2年度

ダイジェスト版



東日本大震災 10年間の復旧・復興の記録



はじめに

未来につなぐ災害に強いまちづくり 東日本大震災から 創造的復興に取り組んだ10年の記録

平成23年3月11日14時46分に発生した東日本大震災から10年。

「災害に強いまちづくり宮城モデル」の推進を軸として、
産業や生活の基盤となる社会資本の復旧はもちろん、
産業の活性化や交流人口の拡大など『創造的復興』に
真摯に、着実に歩みを進めてきました。

“被災地みやぎ”に当たり前の日常と
県民の笑顔を取り戻すべく、
土木部職員一人ひとりが
それぞれの立場で全力で取り組んできました。

一年一年積み重ねたあゆみは、
今後の防災・減災・伝承に必ず繋がる
貴重な経験や知見となります。

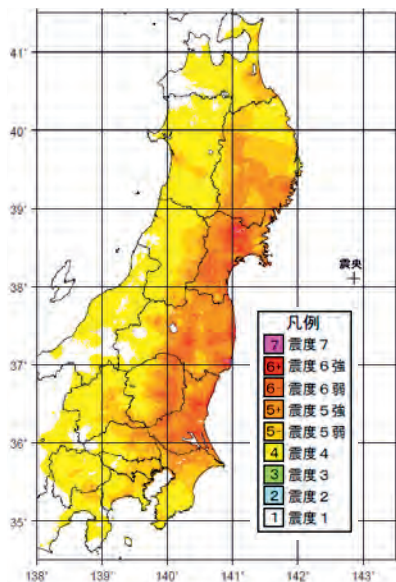
その全部が未来へ続いていく記録と記憶です。

目次

はじめに	04
地震発生時の初動対応と体制	06
東日本大震災 10年のあゆみ	08
平成23年度の取組	10
平成24年度の取組	11
平成25年度の取組	12
平成26年度の取組	13
平成27年度の取組	14
平成28年度の取組	15
平成29年度の取組	16
平成30年度の取組	17
令和元年度の取組	18
令和2年度の取組	19
公共土木工事の完成事例	20
「復興フォーラム」開催記録	24
宮城県土木部「震災の記録誌」の歴史	26

2011.3.11 M9.0 東日本大震災発生

宮城県土木部では地方自治法に基づく応援を全国の地方自治体などからいただきながら、未曾有の大災害と向き合ってきました。地震発生直後の体制・初動対応から応急復旧、そして1年ごとに積み上げてきた復興のあゆみを振り返ります。



地震の概要

発生時刻：平成23年3月11日(金)14時46分
震源：三陸沖牡鹿半島の東南東約130km付近
深さ約24km

規模：Mw9.0
断層の大きさ：長さ450km、幅200km
地震の種類：海溝型地震、逆断層型
最大震度：震度7(栗原市)

宮城県の沿岸15市町全てに大津波が襲来

津波の高さ：石巻鮎川 8.6m以上

浸水面積：327km²

地盤沈下[海拔0m以下の面積]：56km²

宮城県で甚大な被害の発生

■人的被害(令和3年10月31日現在)

死者[関連死含む]：10,568人

行方不明者：1,215人

■住宅被害(令和3年10月31日現在)

全壊[床上浸水含む]：83,005棟

半壊[床上浸水含む]：155,130棟

一部損壊：224,202棟

■被害額(令和3年9月30日現在)

9,096,893,428千円

※東日本旅客鉄道の被害額は含まれず

最大時32万人が避難

最大避難者数 [3/14] 320,885人

避難所数 [3/15] 1,323箇所

避難所閉鎖日 平成23年12月30日

最大二次避難者数 約3,000人

(H23.4~10 調整に県が関与した数)

地震直後の対応

①土木部災害対策本部の設置

地震発生後、県は直ちに災害対策法に基づき知事を本部長とする宮城県災害対策本部を設置。土木部では、宮城県災害対策本部が設置されたことから「宮城県土木部災害対策本部及び事務局の組織並びに運営に関する要領」第2に基づき、県庁8階土木部会議室に宮城県土木部災害対策本部を設置し、土木部としての対応方針の決定、被害状況の把握、その後の公共土木施設等の復旧に全力を挙げて取り組みました。

②土木部職員の安否確認

最大震度7を記録し、大津波による人的被害が甚大なことが予想されたため、土木部職員(臨時職員含む)976名の安否確認を直ちに実施。沿岸部の事務所は大津波で事務所そのものが被災し、NTT回線、携帯電話が使用出来ない状況となり、個人の固定電話や携帯電話も通話不能に。安否確認は非常に困難を極めました。土木部職員が全員無事と確認できたのは地震発生後6日目となる平成23年3月17日でした。

③初動時における災害復旧体制

沿岸部にある東部土木事務所、気仙沼土木事務所、仙台塩釜港湾事務所、石巻港湾事務所、仙台港背後地土地区画整理事務所は、大津波で事務所そのものが被災したため、災害調査や応急復旧は、内陸部にある事務所で行うことにより初動体制を確保しました。また津波で甚大な被害を受けた沿岸市町については、避難所運営などにより人的不足が顕著であったことから、県において災害査定等を支援しました。



土木部災害対策本部会議の様子



平成23年3月11日15時57分頃(地震発生後1時間11分後)に阿武隈川下流域下水道の県南浄化センター(岩沼市下野郷地内)へ津波が襲来し、当時勤務していた49名の作業員が屋上に避難している写真。この49名の作業員は翌12日の夜に無事救出されました。



国道398号の新北上大橋(橋長565.29m・幅員8.0m)の上部工2径間が津波により落橋。早期に一般車両や工事車両の通行を確保しなければならないことから仮橋を施工しました。

※被災状況データ出典：宮城県「東日本大震災～3.11を語り継ぐ～パネル」資料、宮城県ホームページ公開資料より

各地方公所の初動期における対応状況等の写真

大河原土木事務所



被災状況等の確認

仙台土木事務所



災害査定状況

北部土木事務所



化粧坂橋 応急対応状況

北部土木事務所栗原地域事務所



若柳築館線の通行規制

東部土木事務所



車両通行不能区間 現地確認状況

東部土木事務所登米地域事務所



迫川堤防 応急対応状況

気仙沼土木事務所



仮庁舎(マルタクビル)での執務状況

仙台塩釜港湾事務所



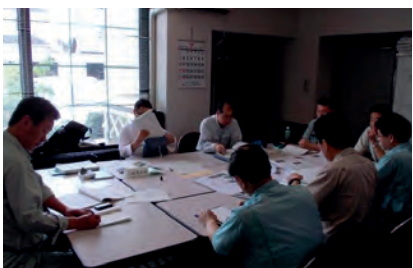
コンテナターミナル再開

石巻港湾事務所



サルベージ作業状況

中南部下水道事務所



災害査定状況

東部下水道事務所



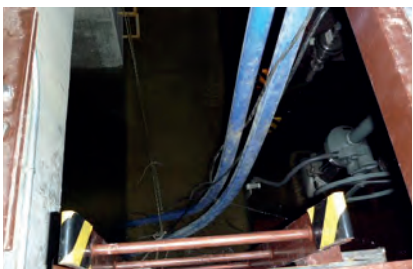
東部浄化センター 放流管応急復旧

仙台地方ダム総合事務所



寺野警報局 応急対応状況

大崎地方ダム総合事務所



上大沢ダム 応急対応

栗原地方ダム総合事務所



荒砥沢ダム防護柵復旧

仙台港背後地土地区画整理事務所



被災車両仮置状況

宮城県土木部 東日本大震災からの 復旧・復興 10年間のあゆみ

2011

2012

復興期

2011.3.11 東日本大震災(M9.0)発生。

宮城県の沿岸15市町全てに大津波が襲来し、あらゆるインフラが機能停止になりました。

昼夜を問わず道路啓開等、応急復旧を進めました。

そして震災から10年、県内外から様々な支援をいただきながら復旧・復興は着実に進みました。

各施設の被害状況 / 応急復旧状況



■道路



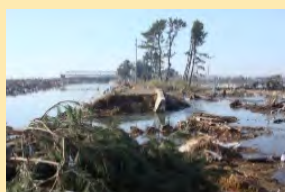
(主) 気仙沼唐桑線



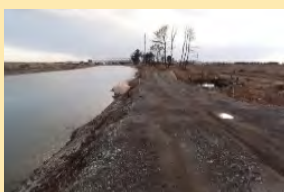
■橋梁



(国) 398号 内海橋



■河川



中貞山運河



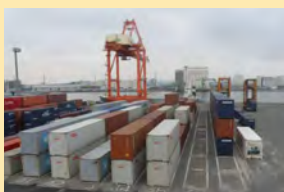
■海岸



白浜海岸



■港湾



仙台港 高砂コンテナターミナル



■空港



仙台空港



■下水道



石巻東部浄化センター

2015



●2015.2
折立海岸



●2015.3
女川復興まちびらき



●2015.7
玉浦西地区まちびらき

2016



●2016.4
仙台湾南部海岸



●2016.4
(国) 346号 本吉バイパス



●2016.10
北上運河



●2016.10
(国) 398号 新北上大橋



●2017.7
菖蒲田浜地区海岸

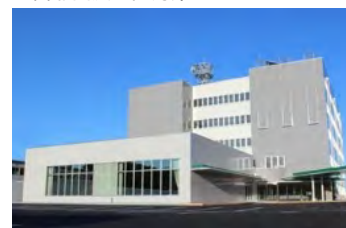
2017



●2017.6
(一) 馬場只越線 只越バイパス



●2017.7
菖蒲田浜地区海岸



●2017.10
気仙沼合同庁舎

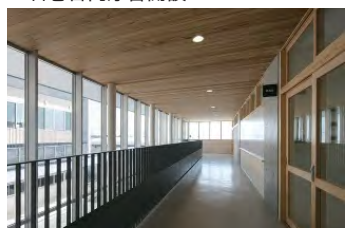
再生期

発展期

2018



●2018.2
石巻合同庁舎開設



●2018.7
気仙沼向洋高校



●2018.7
定川



●2018.11
(国) 398号 石巻バイパスII期

2020



●2020.3
(主) 女川牡鹿線
小乗浜



●2020.5 高砂コンテナターミナル
新トラックゲート



●2020.6
水門陸閉鎖システム 運用開始



●2020.9
仙台塩釜港(仙台区)蒲生地区海岸



●2020.9
(国) 398号 内海橋

2019



●2019.4
気仙沼大島大橋



●2019.4
矢本海浜緑地



●2019.3
気仙沼港海岸 朝日地区



●2019.7
(主) 石巻鮎川線 小網倉浜



●2019.6
関上地区まちびらき



●2019.12
(主) 岩沼蔵王線
大師・姥ヶ懐道路

2021



●2021.1
(一) 釜谷大須雄勝線
伊勢畑



●2021.3
(主) 相馬亘理線



●2021.3
七北田川



●2021.3
中島地区海岸



●2021.3
石巻南浜津波復興祈念公園

平成23年度(2011年度)の取組

H23.4.1

仙台塩釜港及び石巻港における一般船舶の利用を再開。

早期回復と各港湾背後企業の早期復興に向け「第1回石巻港復興会議」を開催。津波で甚大な被害を受けた「仙塩浄化センター」をマスコミ初公開。

4.13

国内臨時便が震災後、仙台空港に初就航。



4.16

完成自動車の積出しを震災後、仙台港から初出港。

4.28

塩竈市で県内初となる仮設住宅への入居を開始。

5.10

公共土木施設第1次災害査定(～12日, 6班体制, 全110件)

被災建築物応急危険度判定を完了。(12市18町, 危険5,200件, 要注意7,553件, 調査済37,968件, 合計50,721件)

以降, 年内は12月19日～23日の第28次災害査定まで実施。

7.1

津波で被災した東部土木事務所の修繕が完了し業務再開。

7.25

仙台空港の国内定期便・国際臨時便が運行再開。



9.15

仙台港で日本初となる45フィートコンテナの第一船出航。



9.25

仙台空港ターミナルビルの完全復旧, 国際定期便(仙台～ソウル便)が再開。

10.1

仙台空港アクセス鉄道の全線運行再開。

10.18

津波で落橋した新北上大橋及び定川大橋の仮橋が供用開始。



11.4

応急仮設住宅全戸分完成(15市町22,042戸)。



11.14

地震で被災した志田橋の通行止め解除。

11.24

「みやぎ県北高速幹線道路」第1期区間を全線供用開始。



12.21

「宮城県復興住宅計画」を策定し公表。

H24.1.22

仙台港における北米西岸/東南アジアコンテナ航路を再開。



1.23

公共土木施設災害査定完了(全29次, 5,908件)。

1.27

気仙沼地区の復興のシンボルとなる大島架橋事業に着手。



2.15

「公共土木施設等復旧方針」を策定し公表。

3.3

津波で甚大な被害を受けた大曲海岸の堤防復旧に着手。



3.9

「3.11伝承・減災プロジェクト」に着手, 津波浸水表示板の設置開始。

3.21

「宮城県社会資本・再生復興計画緊急アクションプラン」を策定し公表。

平成24年度(2012年度)の取組

H24.4.6

「三陸沿岸道路仙塩道路4車線化着工式」を開催。

4.8

「仙石線多賀城地区 連続立体交差事業高架切換記念式典」を開催。



4.25

「仙塩浄化センター下水処理開始式」を開催。

5.31

丸森大橋の供用開始に当たり「国道113号 館矢間バイパス開通式」が開催され、全線開通を祝う。

6.4

「石巻港 災害復旧工事着工式」を開催。



6.7

「葛蒲田海岸 災害復旧工事着工式」を開催。

6.8

「第1回みやぎ復興住宅整備推進会議」を開催。住宅・まちづくりに関する情報を関係機関で共有。

7.12

三陸自動車道の仙台松島道路(宮城県道路公社管理)において施工中の4車線化工事が進み、利府中ICと松島海岸ICが供用開始。



8.5

「岩沼市玉浦西地区 防災集団移転促進事業着工式」を開催。防災集団移転促進事業が全国第一号として着手。

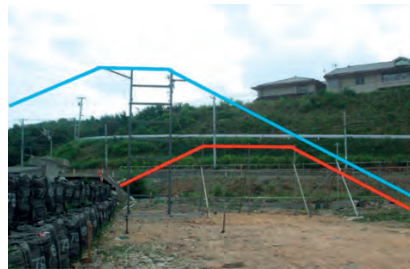
8.8

仙台松島道路の利府中IC～松島海岸IC間の利府町春日地内に「春日パーキングエリア」が建設され、完成式が開催。



8.31

「戸倉海岸 災害復旧工事 着工式」を開催。気仙沼・本吉地域では初の海岸災害復旧工事となった。



9.8

三陸沿岸道路「石巻北インターチェンジ」及び「県道石巻北インター線」着工式を開催。

9.18

「石巻東部浄化センター下水処理開始式」を開催。

10.17

「定川 河川災害復旧工事着工式」を開催。
「女川湾口防波堤 災害復旧工事着工式」を開催。
仙台塩釜港、石巻港、松島港の統合一体化実現。

11.4

「気仙沼港商港岸壁 災害復旧工事着工式」を開催。

11.27

山元町新山下駅周辺地区「第一期災害公営住宅 新築工事着手式」を開催。

12.1

仙台東部道路「仙台港インターチェンジ」供用開始。



H25.1.23

「大島架橋事業着工式」を開催。

1.25

「仙塩浄化センター汚泥焼却施設」の汚泥焼却を開始。

1.27

「旧北上川河口部堤防護岸復興着工式」を開催。

1.29

「岩沼海浜緑地 復旧・復興工事着工式」を開催。

2.14

「南三陸町 災害公営住宅整備事業着工式」を開催。

2.26

「南三陸町 防災集団移転促進事業着工式」を開催。

3.22

「県南浄化センター下水道災害復旧完工式」を開催。



3.23

「国道346号鹿島台バイパス開通式」を開催。

「仙台湾南部海岸完成式」を開催。

平成25年度(2013年度)の取組

H25.4.1

平成25年度自治法派遣職員への「辞令達達式」を開催。
県内初の「災害公営住宅」入居開始。

4.12

塩竈市北浜地区の「土地区画整理事業認可書交付式」を開催。

5.18

伊里前川総合開発事業の一環として平成4年度に着手した「払川ダム」が4月26日に試験湛水を終了したことから、竣工式典を開催。



5.22

女川湾口防波堤災害復旧工事において、ケーソン据付が開始され本格的な復旧に着手。



5.23

「第8回岩手県・宮城県・福島県土木部長等連絡調整会議」を開催。

7.5

仙台港区の港湾施設である「中野1号上屋」は、近隣に移転新築し供用を開始。



7.28

「気仙沼市鹿折南気仙沼地区 被災市街地復興土地区画整理事業着工」を開催。

7.31

平成7年度より整備を進めてきた大衡仙台線小野工区の未供用区間1.3kmが開通。

8.19→9.6

職員派遣元の都道府県を訪問し、これまでの応援に対する御礼と、自治法派遣職員の平成26年度以降の継続派遣要請を実施。

8.29

主要地方道古川佐沼線の透川橋災害復旧工事が完了し、栗原地域事務所管内における復旧事業が全て完了。

8.31

国道108号における花淵山2号トンネル工事開始に伴い、安全祈願祭が行われた。

9.6

仙台三本木線混内山工区全面供用。大崎圏域と仙台圏域を結ぶ重要な路線がより安全に通行可能となった。

10.9

七ヶ浜町、塩竈市、仙台土木事務所、仙台塩釜港湾事務所の4団体間で建設発生土利用に係る自治体間協定を締結。

10.10

国道398号宮前工区が開通。

10.16

災害時における民間賃貸住宅の提供等に関する協定を締結。

11.1

長沼ダムの「試験湛水」を開始。



11.8

塩竈市港町地区一団地の「津波防災拠点市街地形成施設事業認可書交付式」を開催。

11.17

「仙石線多賀城地区連続立体交差事業整備完了記念式典」を開催。



12.20

県営住宅の「災害復旧工事」が全て完了。

12.21

「岩沼市 玉浦西地区第1期宅地引渡し式」を開催。

「南三陸町 戸倉地区藤浜団地竣工式」を開催。

七ヶ浜町 菖蒲田浜、花淵浜、代ヶ崎浜A、代ヶ崎浜B 地区の被災市街地復興土地区画整理事業認可書交付式を開催。

H26.1.16

大河原土木事務所管内、207箇所の道路、河川、橋梁の災害復旧工事が、全て完了。

1.24

大島架橋事業(仮称)二ノ浜1号トンネル貫通式を開催。

2.8

石巻市新蛇田(B・C-1・C-2街区)地区災害公営住宅着工。

3.10

山元町新山下駅周辺地区(第二期)災害公営住宅(25戸)完成。

3.24

東松島市鳴瀬給食センター跡地地区災害公営住宅(21戸)完成。

3.25

(都)駅前大通線(巨理町)開通。

3.26

石巻東部浄化センターの水処理施設2系列の災害復旧工事が完成。

3.29

(主)涌谷津山線 下屋浦工区供用開始。

平成26年度(2014年度)の取組

H26.4.18

仙台塩釜港 外貿定期コンテナ航路増便。

4.25

「仙台港国際ビジネスサポートセンター」
災害復旧工事完了。



4.27

岩沼市 防災集団移転促進事業「玉浦西地区
第3期宅地引渡し式」開催。



5.17

岩沼市民会館にて「津波防災シンポジウム」開催。



5.31

調査開始から43年の歳月を経て「長沼ダム」
が竣工。



6.27

(主)塩釜巨理線 下増田道路改良事業の
一部供用開始。



7.16

生コン仮設プラントからの出荷開始(気仙
沼市本吉地区・石巻牡鹿地区)。

8.9

「スリーエム仙台港パーク(仙台港区中央
公園)」供用再開。

8.19

「貞山運河再生復興会議」開催。

8.22

「志津川自然の家」災害復旧工事完了。



9.19

「水産技術総合センター海水ろ過設備」竣
工。

9.25

(仮称)磯草3号トンネル(乙姫1号トン
ネル)貫通式。これにより、大島架橋事業の5
つのトンネル全てが貫通。



10.3

津波により被災した「石巻港区大手ふ頭資
材倉庫」が竣工し、供用開始。

10.21

平成26年5月末に着手した東舞根復興道
路事業の「舞根トンネル」が貫通。

11.13

(主)中田栗駒線 福岡工区開通。

11.15

「大島架橋本体工事 着工式」開催。



H27.1.13

仙台環境開発大倉ダム左岸復旧工事も
完成。



1.16

防災集団移転促進事業の造成工事着手等
地区が100%達成。

3.6→12

震災記憶の風化防止やこれまでの支援に
対する感謝の意を込めて、東京スカイツ
リーにて復興PR実施。

3.16

「第3回国連防災世界会議パブリック・
フォーラム」においてシンポジウム開催。

3.16

仙台港多賀城地区緩衝地にて「貞山運河再
生・復興ビジョン」に基づく取組で「京都祇
園しだれ桜」を記念植樹し、記念碑を除幕。

3.26

復興支援道路「みやぎ県北高速幹線道路Ⅱ
期,Ⅲ期,Ⅳ期区間」着工式開催。

平成27年度(2015年度)の取組

H27.4.15

岩手・宮城・福島被災3県土木部長が国土交通省、復興庁、県選出国會議員に対して「集中復興期間の延長及び特例的な財政支援の継続を求める要望」及び「国が行う復旧・復興事業の整備促進と全面的な財政支援の継続を求める要望」を実施。



4.24

(主)河北桃生線バイパスの供用開始。

5.30

山元町中央公民館において「津波防災シンポジウム」開催。

6.6

川内沢川では平成6年9月22日集中豪雨による甚大な浸水被害を契機に上流に川内沢ダム、仙台東部道路より下流では『放水路』の建設に着手。約20年の歳月をかけ完成し竣工式を開催。



7.17

平成25年10月の台風26号で発生した土砂崩れにより約1kmにわたり通行止めとなっていた(一)青根蔵王線が開通。

8.20

石巻市黄金浜北地区で整備を進めていた災害公営住宅が完成。

9.11

気仙沼保健福祉事務所がグリーンニューデール基金を用いて太陽光発電設備を導入。

9.17

七ヶ浜町菖蒲田浜地区で整備を進めていた災害公営住宅が完成。

10.2

南三陸町戸倉地区にて、国道398号戸倉復興道路を一部供用開始。

10.30

蔵王山の火山活動の活発化に伴い、噴火警戒区域に隣接している蔵王レストハウス周辺の観光客に避難を促すため『サイレン・スピーカー』を設置。



11.5

東侍浜地区海岸(石巻市荻浜地先)は震災により堤防が沈下、倒壊するなど甚大な被害が発生。災害復旧工事着工から2年を経て竣工式を開催。



12.1

(主)泉塩釜線を4車線化。

12.13

「国道4号築館バイパス及び市道栗原中央線の開通式」開催。

12.23

女川駅前商業エリア開業。「おながわ復興まちびらき2015冬」開催。



H28.1.21

荒谷前地区海岸は平成25年10月から災害復旧工事に着手し、気仙沼管内初のL1堤防として完成、竣工式を開催。



1.30

常磐自動車道「山元南スマートIC」着工式開催。

2.18

(新)石巻合同庁舎, (新)気仙沼合同庁舎着工。

2.19

雄勝港(石巻市雄勝町)「浪板防潮堤」完成。



3.12

(主)古川松山線「志田橋」供用開始。



3.24

(主)気仙沼唐桑線「東舞根復興道路」供用開始。

3.25

県内唯一の津波防波堤である「女川湾口防波堤」完成。

平成28年度(2016年度)の取組

H28.4.14/16

「平成28年熊本地震」が発生。宮城県では国土交通省からの派遣要請に基づき、被災建築物の応急危険度判定を行う建築職員20名を派遣。

4.24

平成20年度から整備を進めて来た国道346号「本吉バイパス」供用開始。

5.14

東松島市コミュニティセンターにて「津波防災シンポジウム 語り部が考える“伝承”の在り方 ～東日本大震災から5年、今、これから、何を語るか～」開催。

6.13

津波により北上川左岸側の2径間(L=155m)が流出するなどの甚大な被害を受けた国道398号「新北上大橋」が復旧工事を終え開通。



6.28

女川湾口防波堤災害復旧事業が「全建賞」受賞。

7.13

「宮城県建設工事表彰式・事故防止対策推進大会」開催。

8.10

南三陸町内では初の復興道路となる国道398号「戸倉復興道路」及び「波伝谷復興道路」開通。



9.15

「宮城県土木部優良建設関連業務・MVP表彰式」開催。

10.15

「北上運河災害復旧工事」が完成。東松島市を流れる北上運河において、県内の河川災害復旧工事では第1号となる竣工式を開催。



10.24

十三浜字猪の沢から浪田地内までの延長約119kmを計画区間とし、平成24年度から相川復興道路事業として整備を進めてきた「(仮称)相川トンネル」貫通。

12.1

(一)出島線出島工区が開通。昭和63年度に道路改良事業に着手、平成16年4月に一部区間が開通。今回の開通により本事業の全区間が完成。

12.14

多賀城市災害公営住宅が全戸完成。

12.17

宮城県が岩沼市と連携して平成24年度から整備を進めてきた、主要地方道塩釜互理線早股寺島復興道路(L=0.8km)が供用開始。



12.20

「宮城県蔵王噴火対策砂防計画検討会」開催。

12.31

平成28年の貨物取扱量が過去最高となる4711万ト(速報値)となりました。

H29.1.23

被災市街地復興土地区画整理事業と一体的に整備を進めてきた、一般県道清水浜志津川港線「志津川復興道路」が供用開始。

2.28

気仙沼市登米沢地区海岸の防潮堤工事が完了。



3.17

南三陸町内で整備を進めていた災害公営住宅が全戸(738戸)完成。

3.18

「名取中央スマートIC」開通。

3.25

平成19年度から整備を進めて来た都市計画道路大手町下増田線が完成し開通式を開催。



3.29

(一)大島浪板線 大島架橋上部工を架設。



3.30

山元町内で整備を進めていた災害公営住宅が全戸(490戸)完成。



平成29年度(2017年度)の取組

H29.4.28

新たに沿岸市町の復興まちづくり事業に携わる職員を対象に「第1回復興まちづくり事業勉強会」を開催。

5.14

名取市文化会館にて「津波防災シンポジウム ～新たなコミュニティで生かされる震災伝承とは～」開催。



6.13

復興道路事業の小乗浜工区は、平成24年度より女川町小乗浜地内から高白浜地内までの1.2km区間。その一部である「(仮称)小乗浜トンネル」の貫通に伴い「貫通記念式典」を開催、トンネルの名称を「小乗トンネル」に決定。

6.17

(一)馬場只越線「只越バイパス」開通。



7.10

震災の大津波により上部工が流出するなどの甚大な被害を受けた(国)398号「新相川橋」の取付道路が完成。



7.14

(主)塩釜七ヶ浜多賀城線「菖蒲田浜復興道路」開通。
「3.11東日本大震災伝承板」を菖蒲田地区海岸に設置。

7.31

仙台塩釜港(仙台港区)臨港道路ふ頭8号線完成。



8.14

仙台塩釜港(塩釜港区)西ふ頭(港橋前)胸壁完成。

9.20

平成24年度から避難路として整備を進めてきた(一)岩沼海浜緑地線の復興道路L=362mが完成し供用を開始。

9.28

北部土木事務所管内「市町合同現場研修会」を実施。



10.11

(国)398号「御前浜復興道路」開通。

10.17

「気仙沼合同庁舎」の開庁記念式開催。



10.28

「気仙沼大島大橋」の架橋本体工事が完了し、気仙沼市の協力をいただき見学会を開催。約400名の方々が参加。



12.15

仙台塩釜港(仙台港区)高松2号ふ頭供用開始。

12.20

県及び市町村等の災害実務担当者を対象に第1次査定の登米市の現場で「災害査定臨場研修」を実施。

H30.1.24

主要地方道岩沼蔵王線大師・姥ヶ懐工区のうち、岩沼市大師地区と村田町姥ヶ懐地区を結ぶ「志賀姥ヶ懐トンネル」貫通。



3.17

岩沼海浜緑地公園で「桜植樹会」開催。



3.25

(一)弘川町向線 伊里前工区開通。



平成30年度(2018年度)の取組

H30.4.27

復興道路(一)荒浜港今泉線開通。

5.14

土井復興副大臣が、県が仙台塩釜港仙台港区で進めている「津波漂流物対策事業」を視察。



6.9

塩竈市で県内初となる仮設住宅へ入居を仙台塩釜港向洋地区「ふ頭再編改良事業着工式」を開催。



6.28

「塩竈市海岸通1番2番地区第一種市街地再開発事業施設建築物建設工事(1番)地鎮祭・着工式」開催。



7.20

「気仙沼向洋高校」は学校全体を気仙沼市波路上瀬向から内陸の気仙沼市長磯牧に移転。改築工事完了。



7.21

平成24年10月から東松島市及び石巻市において進めてきた「定川災害復旧工事」が完成、竣工式を開催。



7.26

(主)女川牡鹿線「五部浦第二トンネル」開通。



9.28

熊本県議会による「裏沢川砂防堰堤」(栗原市栗駒)の視察。

10.26→27

運河沿川10市町5利活用団体が協働し「全国運河サミットinみやぎ」開催。

10.31

女川町生涯学習センターホールにて「津波防災シンポジウム伝承を継続するために～地域の強みを津波防災に生かす～」開催。

11.17

(国)398号石巻バイパスⅡ期(大瓜工区)開通。



仙台塩釜港松島港区「災害復旧工事竣工式」開催。

12.4

外貿コンテナ定期航路(中国航路)新設。

12.25

みやぎ県北高速幹線道路Ⅱ期(中田工区)開通。



12.26

気仙沼港海岸護岸災害復旧事業(小々汐地区・梶ヶ浦地区)完成。

R1.1.24

震災で被災した気仙沼市片浜地区海岸の災害復旧事業が完成。事業延長L=753.9m, 復旧高さTP+7.2mの防潮堤となる。



2.22

大島架橋事業において整備を進めていた大浦工区及び小々汐工区(大浦防災集団移転団地から小々汐防災集団移転団地を結ぶ約1.8km区間)が開通。

3.18

「小乗浜復興道路(仮)小乗浜橋連結式」開催。

3.21

「戸倉地区海岸災害復旧工事完成報告会」開催。



令和元年度(2019年度)の取組

R1.4.7

「気仙沼大島大橋」開通。



5.24

七ヶ浜海岸花淵浜地区海岸災害復旧工事完成。

5.28

女川町横浦地区造成工事完成。



6.30

気仙沼市只越川の河川災害復旧工事に伴って架け替えられた「只越橋」を含む(一)馬場只越線が完成し、地元住民が参加した開通式を開催。



7.9

甚大な被害を受けた石巻市小網倉浜地区と清水田浜地区へのアクセスを担う「小網倉浜復興道路」が開通し、開通式を開催。



7.16

二級河川桜川水系「桜川」河川災害復旧工事完成(気仙沼市)。



7.18

(主)奥松島松島公園線 社会資本整備総合交付金事業(復興枠)完成。

7.20

震災で被災した気仙沼市中島海岸の「小泉海水浴場」が再開。



8.9

(都)源光町田線道路改良工事完成。

10.10

(一)石巻工業港矢本線「定川大橋」開通。開通に伴い、石巻圏域内の安全・安心な交通を確保するとともに、石巻工業港の東西アクセスの向上。



10.18

(国)349号は令和元年東日本台風で甚大な被害があったことから、「道路法第48条の重要物流道路等の管理の特例」に基づき、国土交通省が道路啓開を代行。重要物流道路制度創設後、全国初の取組。

10.23

一級河川名取川水系「北貞山運河」災害復旧工事完成。

11.10

宮城県では第1号となる東名水門(東名運河)で水門や陸閘の「自動閉鎖システム」の運用を開始。



11.22

水戸辺川河川外災害復旧工事(その1工区)完成。

12.21

(主)岩沼蔵王線 大師・姥ヶ懐道路の「志賀姥ヶ懐トンネル」が開通。岩沼市と村田町のアクセスの向上が図られ、交通が安全なものとなる。



R2.1.21

一級河川名取川水系「増田川」河川災害復旧工事完成。

1.22

気仙沼港災害復旧工事完成。



1.30

(国)349号丸森地区 国が別ルートで本復旧。

1.31

みやぎ県北高速幹線道路「紫雲山大橋」完成。

3.5

高砂コンテナターミナルトラックゲート新築工事完成。

3.22

小乗浜復興道路の、女川町小乗浜地区と高白浜地区を結ぶ事業延長L=1.2km開通。



3.26

野々島地区海岸毛無崎地先海岸災害復旧工事完成。

令和2年度(2020年度)の取組

R2.4.9

平成22年度から事業を進めてきた(一)大塩小野停車場線上(小松工区)が開通。



4.13

高砂コンテナターミナル新トラックゲート運用開始。



6.12

平成25年度から進めていた「利府町新中道土地区画整理事業」完了。



7.16

「令和2年度宮城県建設工事表彰式」開催。

7.30

「第一回 宮城県津波浸水想定の設定に関する検討会」開催。

8.4

(都)矢本門脇線(大曲工区)開通。



8.25

「(国)398号 相川復興道路事業(仮)相川1号橋連結式」開催。

8.28

(主)女川牡鹿線 高白復興道路 一部供用開始。

9.10

石巻市中心部の旧北上川左右岸を結ぶ一般国道398号「内海橋」開通。



9.30

「令和元年台風第19号を踏まえた今後の治水対策の在り方検討会(第三回)」開催。

10.3

(一)高城停車場線「松島橋」開通。

10.5

(一)大島浪板線(東八幡～浪板工区)供用開始。

10.29

(主)相馬亘理線(坂元工区)開通。

11.11

優良建設関連業務及び建設関連業務優秀技術者表彰式開催。

11.21

三陸沿岸道路(小泉海岸IC～本吉津谷IC)開通。

12.11

「仙南地域広域景観計画」公表。

12.20

「第11回復興加速化会議」開催。

12.25

(一)大衡仙台線(宮床工区)開通。

「(仮称)新・土木建築行政推進計画有識者検討会議(第3回)」開催。



R3.1.8

第4回インフラメンテナンス大賞「国土交通大臣賞」受賞(仙台塩釜港塩釜港区西ふ頭棧橋・観光棧橋災害復旧工事)。

1.29

「災害時における土地調査及び補償調査等に関する協定」締結。

2.10

「仙台空港の運用時間24時間化に関する覚書」締結。

3.6

三陸沿岸道路(気仙沼港IC～唐桑半島IC)開通。

常磐道・仙台東部道路(山元IC～岩沼IC)4車線化開通。



3.23

都市計画道路道路・矢本門脇線「定川復興大橋」供用開始。



3.26

(主)相馬亘理線「坂元・山寺復興道路」の全線開通。



3.28

「石巻南浜津波復興祈念公園」開園。



公共土木施設の完成事例 災害復旧事業

被災から施工，完成までの事例を写真でご紹介します。

西浜防潮堤 [石巻市西浜町]

西浜地区防潮堤災害復旧工事は，着工当初，詳細設計が完成しておらず，設計と同時並行で進めなければならなかったこともあり，平成25年12月14日から平成28年10月24日までのおよそ3年間に及ぶ長期工事となりました。県内各地の震災復旧工事が加速したため，防潮堤被覆ブロックの型枠供給が間に合わず，二次製品で対応するなど，現地で工夫しながらの施工でした。



■被災時



■施工中



■完成

伊里前道路 [南三陸町歌津字白山]

平成23年度より災害復旧を進めてきました一般県道払川町向線伊里前道路が新たなルートで平成30年3月25日に供用を開始しました。旧歌津町中心部の伊里前地区と払川地区を結ぶ重要な幹線道路であり，被災した区間については他事業との計画調整からルート変更し，一部区間で三陸道と並行し国道45号に接続する道路として整備を進めてきました。今回の供用により，安全で円滑な交通確保が図られるとともに，歌津地域の復興を加速させ水産業や観光振興にも大きく寄与することが期待されます。



■被災時



■施工中



■完成

中島地区海岸 [気仙沼市本吉町中島]

平成26年度より災害復旧を進めて来た中島地区海岸において平成30年5月22日に防潮堤部分が完成しました。中島地区海岸，津谷川河口の小泉地区には20mを超える大津波が襲来し，津谷川を遡上，約4km上流の旧本吉町中心市街地の津谷地区においても甚大な被害が発生しました。環境や景観への配慮を求める地元の声があったことから，要望事項を検討するため学識経験者等で構成する検討会，地元振興会等で構成する検討ワーキングの体制を整え，復旧計画の策定を行い整備を進めてきました。



■被災時



■施工中



■完成

定川〔石巻市・東松島市〕

定川は、遠田郡美里町字谷地中・名鱸沼を起点とした延長17.8kmの二級河川です。定川を襲った津波は定川大橋を落橋させ、地震により弱体化した堤防を破壊し、460mの堤防決壊、護岸の流出、堤防の沈下など被害は甚大なものとなりました。定川河川災害復旧工事は、平成23年12月に災害査定を実施した後、平成25年度に本格的な工事に着手し、平成30年7月に完成しました。



■被災時
沈下戻し区間流部 堤防盛土状況



■施工中
沈下戻し区間流部 堤防盛土状況



■完成
沈下戻し区間 三陸自動車道上流から下流を望む



■被災時
L1堤防区間 定川大橋上流部



■施工中
L1堤防区間 鋼管矢板打込状況



■完成
L1堤防区間 定川橋(国道45号)付近から下流を望む

雄勝港海岸伊勢畑地区〔石巻市雄勝町〕

雄勝港海岸伊勢畑地区は雄勝湾奥部に位置し、雄勝漁港海岸と明神漁港海岸に挟まれた延長約800mの海岸です。当該地区の地盤線は海中中部で勾配が急になっていることもあり、基礎部に捨石によるマウンドを構築した上、重力式コンクリート構造を併せた混成堤になっています。平成28年9月に本格的な復旧工事に着手し、令和2年3月までに防潮堤本体が全て完成しました。



■被災時



■施工中



■完成



■被災時



■施工中



■完成

被災から施工，完成までの事例を写真でご紹介します。

五部浦第二トンネル [女川町]

(主)女川牡鹿線は、牡鹿郡女川町黄金町地内を起点とし石巻市大原浜地内までの延長約26kmの牡鹿半島を南北に縦断する幹線道路です。地域間のアクセス向上，防災道路ネットワークの構築を目的に，高白浜字根浜地内から横浦字名不知地内に至る延長1.46kmの区間において，平成24年4月から社会資本整備総合交付金(復興枠)により高白道路改良事業としてバイパス工事に着手しました。



■ 施工中(トンネル抗口吹付工)



■ 施工中(トンネル貫通の瞬間)



■ 完成

(主) 相馬亘理線 (坂元・山寺工区) [山元町 亘理町]

「主要地方道 相馬亘理線」は、福島県相馬市松川浦から新地町，宮城県山元町を経て亘理町鳥の海地区の沿岸部を結ぶ県際道路で，沿線には市街地が形成され，周辺住民の生活道路はもとより，農作物や海産物の物流機能や地域間の交流を果す重要な幹線道路となっています。東日本大震災では，沿岸の市街地が壊滅的な被害を受けたことから，各市町では復興まちづくりを進めてきており，当路線は山元町復興まちづくり計画における津波被害への防御・減災機能を併せ持つ多重防御機能を有する道路として位置付けられています。



■ 坂本工区(R2.10月併用開始)



■ 中浜橋(坂本川)

石巻南浜津波復興祈念公園 [石巻市南浜]

2011年の東日本大震災では，宮城県を含む東北地方が地震及び津波によって甚大な被害を受けました。この犠牲者への追悼と鎮魂，震災の記憶と教訓を伝承するため，平成26年10月に国営追悼・祈念施設の設置について閣議決定が行われ，宮城県における設置場所として石巻市の南浜地区が選定されました。(震災前の南浜地区には約1,000世帯の住居があり，約400名あまりの方々が犠牲になっています。)

この，国営追悼・祈念施設は「津波復興祈念公園」というかたちで，国・県・市の協働により整備を推進しており，平成29年度より工事に着手し令和3年3月28日に開園しました。



■ 被災後



■ 完成

気仙沼大島大橋 [気仙沼市三ノ浜・磯草地区]

平成23年度より事業を進めている、大島架橋事業（一般県道大島浪板線）8.0kmのうち、気仙沼大島大橋を含む【浪板橋】～【磯草地区】間の約5.5kmが完成し、平成31年4月7日（日曜日）に供用を開始しました。気仙沼大島大橋は鋼中露式アーチ橋であり、橋長356m、アーチ支間長297mの同型式では東日本最大の橋梁です。計画ルートは、震災を踏まえて津波の浸水高を考慮した高さとし、三陸自動車道へのアクセスや防災集団移転計画など気仙沼市のまちづくり計画とも調整を図り事業を進めてきました。



■施工後



■施工前



■開通直後



■開通式典

宮城県内「災害公営住宅」 | 平成31年3月末 | 計画戸数15,823戸 | 全戸完成!!



復興フォーラム開催記録

平成23年度から『東日本大震災からの復旧・復興』をテーマに宮城県庁2階土木部からの報告や基調講演、パネルディスカッションなど、復旧・復興の

年度	開催日・来場者数	名称・目的
平成23年度	H24.2.9 来場者数 446名	東日本大震災社会資本再生・復興シンポジウム 「～東日本大震災から美しいふるさと宮城の復興に向けて～」 震災発生から約1年、震災時の初動対応や復興に向けた考え方・取組など、発表・パネルディスカッションを通じて学び、今後の災害対応や復興に役立てる。
平成24年度	H25.1.30 来場者数 471名	東北復興フォーラム in 宮城～住宅・社会資本再生～ 震災発生から2年、宮城・東北の復興状況を内外に伝えるほか、国・県・被災市町のそれぞれの復興への考え方・取組状況、有識者による津波防災・国土政策等の講演を通して、新たな防災対策に活かすとともに、復興まちづくり等の課題解決に向けた糸口を見出す。
平成25年度	H26.2.7 来場者数 480名	宮城県土木部発足80周年記念フォーラム 宮城県土木部80周年。震災から3年、復旧期の最終年度で、宮城の復興に向け新たに出発する年。これまでの80年のあゆみを振り返りながら、震災からの復興を通じ、更なる宮城の発展に向けて、これからの新しい年を切り開いていく。
平成26年度	H27.2.3 来場者数 285名	再生・復興フォーラム～住宅・社会資本～ 震災から4年、沿岸部の復旧・復興が本格化し、新たなステージに移行しつつある中、新たなコミュニティ形成などの課題が顕在化した。 阪神・淡路大震災などの先進事例から学ぶとともに、今後の持続可能な県土づくりに向け中長期的な視点から社会資本整備の役割やあり方について提言をいただく。
平成27年度	H28.1.22 来場者数 256名	～住宅・社会資本～再生・復興フォーラム 震災から5年、沿岸部の復旧・復興が本格化し、復旧・復興の加速化が実感できるようになった。 国が定めた集中復興期間の最終年度、宮城県震災復興計画の再生期2年目で、復興計画期間10年の折り返しの年。 これまでの取組を踏まえ、今後5年間で何をすべきか提言をいただく。
平成28年度	H29.2.3 来場者数 280名	～住宅・社会資本～再生・復興フォーラム 震災から6年、災害公営住宅への入居など、復旧・復興が加速的に進んだ。 国が定めた復興・創生期間に移行した初年度、宮城県震災復興計画の再生期3年目。 集中復興期間の検証を踏まえ、復興後も見据えて今後取り組むべきこと、震災記憶の風化防止・震災教訓の伝承のあり方等について考える。
平成29年度	H30.1.26 来場者数 378名	～住宅・社会資本～再生・復興フォーラム 震災から7年、再生期最終年であり、県のさらなる発展を目指して、着実に「発展期」に繋がっていかねばならない重要な年である。 こうしたことから、県における住宅・社会資本再生に向けた事業の進捗状況及び残り3年となった復興期間の取組について報告するとともに、これまでの防災対策を根本から見直すため、東日本大震災当時を改めて振り返りそこから学んだ貴重な震災教訓を伝承するほか、復興後を見据えた今後の社会資本整備のあり方について考える。
平成30年度	H31.2.1 来場者数 188名	～住宅・社会資本～再生・復興フォーラム 住まいの復旧・復興 総括 震災から8年、沿岸部の復旧・復興事業が進捗し、災害公営住宅への入居、防集団地の引渡しや産業の再生が進み、復旧・復興を一層実感できるようになった。 「宮城県震災復興計画」の発展期の初年度で、県のさらなる発展を目指し、復旧・復興の総仕上げに向け取り組む重要な年。 こうしたことから、本県における住宅・社会資本の復旧・復興について報告するとともに、住まいに係る復旧・復興事業を振り返り、東日本大震災から得られた震災教訓を広く発信し、将来に向けた課題や伝承すべきことなどについて考える。
令和元年度	R2.1.24 来場者数 210名	～住宅・社会資本～再生・復興フォーラム まちづくりの復旧・復興フォーラム 復興計画期間残り1年、最終年度につなげる重要な年である。 県における住宅・社会資本再生に向けた事業の進捗状況及びこれまでの取組について報告し、まちづくりの復旧・復興事業の現状について検証・総括。

講堂にて開催。

経験や教訓の振り返りを行うことで、未来へどう伝え継いでいくかを考える機会を設けてきました。

内容

●**基調講演1**「想定外を克服するために」国土交通省 国土技術政策総合研究所長 西川 和廣 氏

●**基調講演2**「巨大津波の被害実態と今後の防災・減災対策について」

東北大学大学院工学研究科附属 災害制御研究センター 今村 文彦 氏

●**パネルディスカッション**「震災からの教訓を津波防災対策に活かすために」

コーディネーター：ラジオパーソナリティ 板橋 恵子 氏

パネリスト：西川氏、今村氏、安住前女川町長、阿部東松島市消防団長、古閑河北新報社震災取材班キャップ、遠藤 宮城県土木部 次長



●**基調講演1**「東北地方の復旧復興について」国土交通省 東北地方整備局長 徳山 日出男 氏

●**基調講演2**「南三陸町の被災状況と復興について」南三陸町長 佐藤 仁 氏

●**基調講演3**「大津波災害への備え」東北大学名誉教授 首藤 伸夫 氏

●**基調講演4**「社会資本の意義への理解を欠く日本—大災害頻発国での認識欠落—」

財団法人 国土技術研究センター 大石 久和 氏



●**基調講演1**「これまでの自然災害の教訓に学ぶ、今後の社会資本整備のあり方」東北大学災害国際研究所 副所長 今村 文彦 氏

●**基調講演2**「今後の社会資本整備の方向性」一般社団法人 国土技術研究センター 理事長 谷口 博昭 氏

●**パネルディスカッション**「次世代に豊かさを引き継ぐことのできる持続可能な宮城県土づくりに向けて」

コーディネーター：河北新報社 編集局長 鈴木 氏

パネリスト：谷口氏、今村氏、門庭仙台商工会議所専務理事、門傳 土木部次長



●**基調講演1**「先進事例に学ぶ復興—中越から10年、阪神から20年—」

一般社団法人 減災・復興支援機構 理事長 木村 拓郎 氏

●**基調講演2**「国土のグランドデザインと今後の社会資本整備のあり方」

国立大学法人 豊橋技術科学大学 学長 大西 隆 氏

【報告】「宮城県における復旧・復興の取組と進捗状況」宮城県土木部次長（技術担当） 久保田 裕



●**基調講演1**「東日本大震災から真の復興を果たすために」東北大学大学院 震災復興研究センター長 経済学研究科 教授 増田 聡 氏

【報告1】「3県における復旧・復興の状況について」

岩手県土木整備部 道路都市担当技監 青柳 天 氏

福島県土木部 次長（企画技術担当） 鈴木 典弘 氏

宮城県土木部 次長（技術担当） 後藤 隆一 氏

【報告2】「東日本大震災からの復旧・復興の状況について」

東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 復興企画部 次長 白石 浩三 氏

【報告3】「東日本大震災からの復旧・復興の状況について」

独立行政法人都市再生機構 宮城・福島震災復興支援本部 市街地整備部長 吉田 正喜 氏



【報告】「3県における復旧・復興の状況及びこれまでの取組の検証について」

岩手県土木整備部 河川港湾担当技監 八重樫 弘明 氏

福島県土木部 次長（企画技術担当） 杉 明彦 氏

宮城県土木部 技監兼次長（技術担当） 久保田 裕

●**パネルディスカッション**「集中復興期間の検証を踏まえ、今後なすべきことは何か」

コメントーター：宮城学院女子大学 学長 平川 新 氏

コーディネーター：エフエム仙台防災・減災プロデューサー 板橋 恵子 氏 パネリスト：宮城県、岩手県、福島県土木部次長



【報告】「宮城県における復旧・復興の進捗状況、発展期及び復興後を見据えた取組について」

宮城県土木部次長（技術担当） 門脇 雅之

●**基調講演1**「震災復興と伝承—私達の持つべき視点」

元国土交通事務次官（元東北地方整備局長） 政策研究大学院大学 客員教授 徳山 日出男 氏

●**基調講演2**「震災から7年を前に～できたこと、これからやるべきこと～」

東北大学大学院工学研究科インフラマネジメント研究センター センター長 久田 真 氏



●**基調講演1**「超高齢社会における住まい方と住まい～東日本大震災の経験を経て」

東北工業大学工学部 建築学科長 石井 敏

●**基調講演2**「地域に根差した復興住宅の整備」

公益社団法人 日本建築家協会 東北支部 宮城地域会（JIA宮城）副地域会長

有限会社 都市建築設計集団/UAPP代表 手島 浩之 氏

●**基調講演3**「UR都市機構による災害公営住宅建設支援」独立行政法人 都市再生機構（UR都市機構）

東日本賃貸住宅本部 技術監理部設計第1課 助川 護 氏

【報告】「宮城県の住まいの復興について」宮城県土木部技監兼次長（技術担当） 三浦 俊徳



【報告】「宮城県の復旧・復興の状況等」宮城県土木部 次長 佐藤 達也

●**基調講演1**「東日本大震災からの復興まちづくり」国土交通省 都市局 市街地整備課 企画専門官 村上 努 氏

●**基調講演2**「復興の『新しいまち』から『育むまち』へ」

～石巻市 新市街地における被災市街地復興土地地区画整理事業～

石巻市 復興事業部 市街地整備課 課長 草刈 明彦 氏



令和2年度は新型コロナウイルス感染症防止により復興フォーラムは中止となりました。

東日本大震災 年次記録誌(宮城県土木部版)

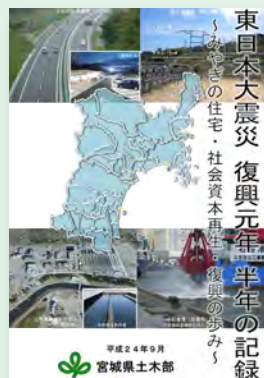
宮城県土木部では、平成23年度から、東日本大震災に関する部内各課(室)・地方機関の復旧・復興の取り組みについてまとめ、「東日本大震災の記録(宮城県土木部)」として発行しています。



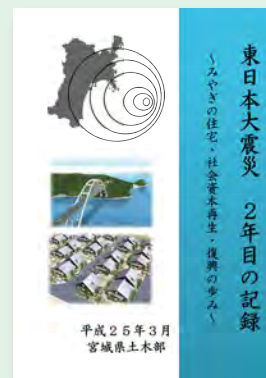
暫定版
平成23年9月発行



1年目の記録
平成24年3月発行



復興元年 半年の記録
平成24年9月発行



2年目の記録
平成25年3月発行



3年目の記録
平成26年3月発行



4年目の記録
平成27年3月発行



5年目の記録
平成28年3月発行



6年目の記録
平成29年3月発行



7年目の記録
平成30年3月発行



8年目の記録
平成31年4月発行



9年目の記録
令和2年3月発行



10年目の記録
令和3年3月発行

宮城県土木部

東日本大震災 10年間の復旧・復興の記録

平成23年度～令和2年度

ダイジェスト版

令和4年3月

編集：宮城県土木部土木総務課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1

TEL：022-211-3108 FAX：022-211-3199